

◎ 計画素案（抜粋）「本町農業の現状、将来像、課題に係る施策の方向と取組内容

新戦略部会検討項目 1 食育・食農及び地産地消推進について**現 状**

- 町の食育・食農推進活動として、めむろ農業小学校、めむろまるごと給食、農家民泊、食育講演会を行い、地産地消バスツアーを実施し、農業の応援団づくりを進めている。
- 各事業参加者が固定されている。新規の参加者を増加させたい。
- 食農推進活動であるめむろ農業小学校の指導者が不足している
- 町が行っている「まちづくりに関する住民意識調査」では日頃から地産地消を意識して買い物している町民の割合は 77%前後を推移し、地産地消を意識している町民が多い。

将来像

食育・食農推進活動参加者が増加し、地産地消の意識が浸透。農業の応援団員が増加している。

課 題課題(1) 食育・食農推進活動の活性化**理由**

食育・食農推進活動を実施しているが、参加者が固定されている。新規の参加者が増えるような取組が必要。

施策の方向

食育推進活動の内容を見直すことで活性化を図る。

取組①

各食育事業の学校への周知など周知方法の検討。

取組②

情報の外部発信の強化。

取組③

観光など他分野と連携して企画力を高め内容を充実させる。

課題(2) 食農教育の指導者不足

理由 現在、既存のめむろ農業小学校の指導者は生産者世代の農業者である。農業体験という性質上、農繁期と重なり、指導者を確保するのが困難。

施策の方向 農業体験における指導者の担い手確保を図る。

取組① 食農教育の重要性を周知し、指導者を増やす。

取組② 情報を発信し、食農教育のPRに努める。

課題(3) 町民の地場産農畜産物消費促進

理由 芽室町民の地産地消を意識している割合は77%である。意識は高い数値であるので、さらなる地産地消の実行性を高める必要がある。

施策の方向 地産地消を実施に結びつける。住民の意識調査の方法・問いかけについて検証。

取組① 食育・食農活動をPRすることで、町民の地産地消への意識を高める。

取組② 意識調査の手法を検討する。地産地消の課題などを炙り出せるような質問形式にする。

検討項目2 6次産業化等推進について

- 現 状**
- 芽室町においては農家個々が独自に加工、直売、販路開拓を実施している。
 - 大規模農家も多い為、農家ごとに6次化に対する考え方は様々である。
 - 6次化についての相談窓口は農政事務所などの専門機関がある。
 - 商品開発を行う加工所が町内には無い。
 - 町として6次産業化への環境整備を行い、間口が開いている状態にしたい。
 - 6次産業化に対する市町村戦略は未策定である。

将来像 市町村戦略が定まっており、制度が周知され6次産業化しやすい環境

課 題

課題(1) 町としての6次産業化支援策の方向性の決定

- 理由** 現在、6次産業化への取り組みは農家個々で取り組みを行っている。町内農業者の6次産業化への展望の状況調査や、町内加工業者など異業種との連携強化、農政事務所、振興局等の関係機関との協議が必要。
- また、新規で6次化を行う場合、商品開発を行う場が町内に無い。

施策の方向 6次産業化への環境整備

取組① 6次産業化市町村戦略を定める

取組② 6次化取組者や6次化検討者へのアンケート調査の実施

取組③ 商品開発の可能な町内加工施設設置の検討

取組④ 6次化に係わる専門知識の研修の実施

取組⑤ 6次化取組希望者の交流会